

# 高松市沖の離島での相互交流と、持続的な関係人口構築のための離島賑わい創出事業

## <男木島地域における活動実績概要>

● **イベント第1弾 「男木島と女木島であそぼう」** 8/18~19  
 島外20名、島民12名、関係人口スタッフ5名、運営スタッフ11名、総参加者48名

初となる女木島男木島横断のイベントを実現させることができました。  
 女木島での活動は合同会社鬼の島にプロデュースをお願いし、女木島特産品のキラケ収穫体験キラケパウダーを使ったクッキー作り体験・漁師飯体験・ビーチで海水浴を楽しみながらライフセーバーによる海の安全教室など、女木島の魅力を詰め込んだ内容の濃いプログラムとなりました。  
 男木島に移動してからは男木子供育会が管理している、森の家(旧保育所)を拠点とし、天然芝のふかふかな校庭を活かしたテントキャンプや、天体観測教室、男木小・中学校見学ツアーも組み、移住・通学のフックを盛り込みました。海と森の家(旧保育所)は今回のイベントに向けて、冷房設備、給湯機を導入し宿泊体験のプログラム実施が可能になりました。

● **イベント第2弾 「大島と男木島であそぼう」** 9/16~17  
 島外19名、島民11名、関係人口スタッフ8名、運営スタッフ9名、総参加者47名

2回目のキャンプイベントでは、大島でのプログラムをNPO法人瀬戸内こえびネットワークにコーディネーターをお願いし、大島で瀬戸芸アートを周り、人権学習を実施し、昼食は男木島観光協会長にプロデュースをお願いし、男木島の特産品を体験して頂きました。男木島へ移動してからは海と森の家(旧保育所)を拠点としたキャンププログラムを行い、今回も男木小・中学校見学ツアーや天体観測教室を行い、天候が良かったので天体望遠鏡で土星の観察を行うことができました。このイベントをきっかけに男木小・中学校へ通学を希望される1世帯を獲得しました。

● **イベント第3弾 「男木島であそぼう」** 12/9

島外24名、島民13名、関係人口スタッフ6名、運営スタッフ7名、総参加者50名

旧保育所と隣接する里山を活かした、自然の中で自由に遊ぶを目指したイベントを行いました。  
 木の実や松ぼっくりを使った工作スペース、ロープ遊びや、プランコを作ったり、ノコギリで木を切ったり、焚き火や焼きマシュマロなど、街中ではやりにくい遊びができるスペースを、自由に行き来して楽しめるフィールドを作りしました。お昼は男木島の伝統男木味噌を使ったしっぽくうどん体験、午後は瀬戸芸アートツアーを行い、文化、芸術、島の自由さや心地よさを体験頂きました。

● **男木女木交流会** 1/21

男木島民10名、女木島民8名、こえび隊3名、関係人口スタッフ1名、総参加者22名

男木島、女木島の離島振興、観光、移住促進活動に取り組んでいるメンバー、こえび隊が集まって顔合わせ交流会を実施しました。課題共有や今後の2島協働体制を築くキックオフ会となりました。

● **イベント第4弾「男木島水仙郷ハイキング」**

島外8名、島民2名、関係人口スタッフ6名、こえび隊1名、運営スタッフ4名、総参加者21名

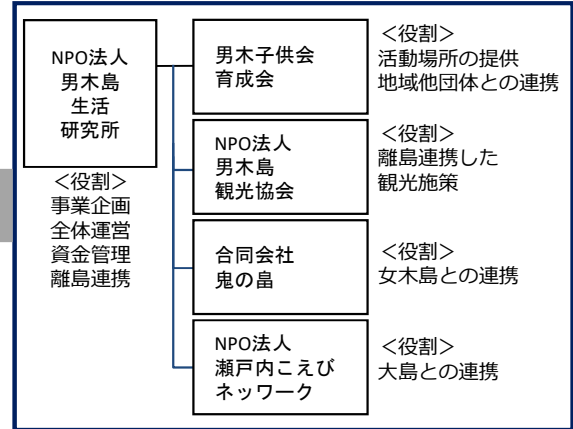
2月に見頃を迎える水仙郷と、観光協会が管理している灯台、灯台キャンプ場を活かし、森ガイドの横山昌太郎さんに講師をお願いして、男木島の歴史、石垣の伝統、文化、自然の知識を織り交ぜたガイドツアーを実施して頂きました。  
 灯台キャンプ場では、島で採れたハーブや魚介を楽しむ昼食をとり、参加者、関係人口スタッフ、島民との交流を深めました。

● **その他の島内活動**

上記イベントのほか、関係人口スタッフにも参加を呼びかけ、2月に島内行事として環境維持清掃作業を実施しました。  
 関係人口スタッフも参加してくださり、島内環境保全のための草刈り・枝打ち作業、保育所管理維持のための清掃作業などを行いました。関係人口スタッフの方からは、能動的に男木島に関われる機会が頂けてすごくうれしい。知り合えた仲間と引き続き何か一緒にやっていきたいという感想を頂き、関係人口の関係性構築は大成功と言える成果を収めることができたと考えています。



## <実施体制図>



## <参画した関係人口の報告>

7/19にwebサイトを作成し公開。  
 募集特設サイト：  
<https://ogijima.kagawa.jp/island-connect/>

応募者数14名、5回に渡るイベントへの参加は、延べ26名の島外からのサポートスタッフが集まりました。  
 オンラインでの説明・交流会を実施し、各イベントへの運営サポートと、イベント自体も楽しんで参加して頂きました。  
 関係人口スタッフが繰り返し来島し、イベント運営に島民スタッフと協力して取り組めたことで、とても良いチーム関係を作り上げることができました。これをきっかけに各々のスキルも把握でき、すでに島の環境整備など、当事業外でも活動に参加して頂いています。

## <事業成果：設定した地域課題へのアプローチ>

【課題①：地域活動継続のための担い手不足】

関係人口スタッフが繰り返し来島し、これをきっかけに各々のスキルの把握ができたことで、環境整備など、当事業外の島内活動にも参加して頂いています。男木女木交流会では今回のメンバーでLINEグループを作り、今後の両島の祭りやイベントの情報を交換し、協力しあい、リソース不足を協力して解決していく体制を整えました。

【課題②：移住定住促進】

当事業のイベントがきっかけで、1名の子どもが島の小中学校へ通学希となり、現在体験入学中で手続きを進めています。移住者とキャンプし交流できたことで、島の教育環境や暮らしの様子などを知ることができ「また遊びに来たい・学校に興味がある・子どもが通いたいと言っていた」というアンケートコメントも頂きました。

【課題③：地域環境の保全】

イベントで里山を活用した事で、草刈りや、木や枝を使った遊びを行い環境保全に貢献しました。人が定期的に往来することで猪の縄張りや押しやり、今年は里山への猪の出没は確認されませんでした(昨年は出没確認あり)また、関係人口スタッフが灯台水仙郷の草刈りにも参加して頂く等、環境保全のためのリソース確保に貢献できています。

## <事業終了後の展望>

今回の男木島での成功例が、女木島でも良いロールモデルとなる事、そして初めて島を跨いで課題解決のプロジェクトが実施できたことによる、良い関係性を財産として、関係人口スタッフも含めて次のプロジェクトへ繋げていきます。  
 また、本事業で設備投資できた海と森の家(旧保育所)では、既に施設と隣接里山(荒神林)を活用した子どもの教育体験活動(ピアノ・英語教室など)が実施され始めています。島の子どもには学びと体験の選択肢を増やし、より住み良い環境になり、教育環境の充実により、今後の島外からの子育て世帯移住に繋がります。